

令和7年度ジャパンリンクセンター運営計画

令和7年4月1日

ジャパンリンクセンター運営委員会

1. 委員会、メンバーミーティングの実施

(1) ジャパンリンクセンター運営委員会および拡大運営委員会

ジャパンリンクセンター運営委員会および拡大運営委員会を4回開催し、JaLCの運営にかかる議論・審議等を行う。

(2) メンバーミーティング(「対話・共創の場」)

メンバーミーティング(「対話・共創の場」)を開催することで、会員間のコミュニケーションを促進し、また、会員からのニーズを把握する機会を引き続き設ける。

2. サービスの開発、運用および管理

(1) 機能の追加・改修

① REST API の検索機能の拡充

REST API について、特定のメタデータ項目に含まれる文字列や登録日などの条件を指定し、該当する DOI の一覧やメタデータを出力できる検索機能を実装する。これにより、特定の条件のメタデータを抽出できるなどのユーザーの利便性を向上させるほか、REST API を利用した外部機関との連携を拡大し、JaLC メタデータのさらなる国際的な流通を促進させる。

② 筆頭著者・責任著者および権利情報への対応

コンテンツ区分「ジャーナルアークティクル」において、以下の機能を実装する。

- ・ 筆頭著者、責任著者の取り込み
- ・ 権利情報(CC ライセンスなど)の取り込み
- ・ 上記項目の情報提供機能(各 API)での提供

これにより、J-STAGE をはじめとする JaLC 会員が保有するこれらのメタデータの流通を可能にし、JaLC 提供データの充実を図る。

③ DataCite 最新スキーマへの対応

コンテンツ区分「研究データ」において、DataCite の新メタデータスキーマ 4.6 で追加されたリソースタイプ等の追加登録、および情報提供機能での出力を可能にする改修を行う。これにより JaLC DataCite コンソーシアムメンバーをはじめ、研究データへのきめ細やかな DOI 登録を可能とする。

(2) 運用

引き続き、システムを構成する OS・ミドルウェアのライセンス終了時期(EOL)を見定め、計画的に更新することで、安定的でセキュアなサービスの提供に努める。システム運用、サービス運用業務の一部は、過年度に引き続き外部に委託して実施する。今年度については、令和 8,9 年度のシステム運用・保守契約の調達を行う。

3. DOI 登録機関業務

(1) 正会員

- ・ 過年度に引き続き、正会員の入会対応を行う。具体的には、説明会等による入会手続き説明、入会審査事務、DOI prefix の払い出し、アカウントの初期設定、データ登録方法のサポートなどである。
- ・ 引き続き会員への DOI 登録支援として、登録マニュアルの改善や Web サイトにおける FAQ の充実、入会手続きのフロー改善等を検討する。

(2) 準会員

- ・ 正会員を通じて、準会員に対する DOI prefix の払い出しに係る事務を行う。
- ・ DOI prefix の払い出しフロー改善を検討する。
- ・ 準会員を持つ正会員と協働して、準会員の増加を図りつつ、JaLC が提供するサービスの呼びかけを強化する。
- ・ 準会員への情報提供の促進の一環として、JaLCNews のサブスクリプションでの購読方式の採用を検討する。

4. その他、JaLC の運営に関する一切の事務

(1) JaLC ストラテジーの振り返り

- ・ JaLC ストラテジー（2023-2027）の中間年として、ロードマップとして策定した実施項目について実績を振り返り、後年度の実施内容について内容の見直し等を検討する。

(2) 「研究データ利活用協議会」との協力

「研究データ利活用協議会」の活動は 10 年目となる。今年度も過年度に引き続きイベント開催などによる活動支援を通じて、研究データおよびそのメタデータの流通にかかるコミュニティ醸成を図る。また、小委員会誘致や、部会活動の支援を継続する。

(3) コミュニティの醸成

ジャパンリンクセンターを支えるコミュニティの醸成に向け、DOI を中心とした PID を取り巻く動向や活用、DOI 登録業務における問題解決などに関する意見交換を行うためのイベ

ント等の場を提供する。

具体的には、以下の活動を行う予定。

- ・ 対話・共創の場の開催
- ・ **JaLC** ミニセミナーの開催
- ・ ジャパンオープンサイエンスサミット（JOSS）への協力や参加の推進

(4) 普及・広報

- ・ 月1回の会員向けメールマガジン「JaLC NEWS」の発行、WEBサイト、イベント等を通して、サービスリリース情報や規約についての連絡、国内外の DOI に関わる情報発信など、会員に対して必要な情報提供を行う。
- ・ 「JaLC NEWS」の配信先拡大に向け検討する。
- ・ WEBサイトの改善を進める。
- ・ 外部発表や会議参加等により対外的な広報に努める。

(5) 国際機関との関わり

- ・ DOI 登録機関(RA)として DOI 財団の活動に参加する。
 - 定例会合やワーキンググループを通して DOI 運用の向上に向けた議論に参加する。
 - DOI Handbook 日本語版の整備を進める。
- ・ Crossref、DataCite との連携を進める。
 - DOI 登録機関 (RA)として、情報共有やイベントでの協力を行う。
 - 日本の利用機関のリード機関として、各種ミーティングへの参加や、コンソーシアム活動の強化に向けた検討を進める。
- ・ 上記以外の DOI 登録機関 (RA) や他 PID 組織、学術インフラサービスとの連携強化を引き続き図る。

5. ジャパンリンクセンター戦略ー2023-2027 との対応

ストラテジー	アクション	運営計画における対応
1. 国際的な協調を図りつつ、日本における学術リソース、学術環境、言語等に対応した DOI の登録、利活用環境を整備します。	1-1. 日本の学術リソースへの DOI 登録インフラ環境を整備します。	2. サービスの開発、運用および管理
	1-2. 会員への柔軟な DOI 登録支援を行います。	3. DOI 登録機関業務 4.(3) 普及・広報
2. 学術において必要な様々なリソースへの DOI の登録を促進させます。	2-1. 研究者が利用する様々なリソースへの DOI 登録のため、メタデータ登録情報の整備を行います。	2. サービスの開発、運用および管理
	2-2. ユーザーに対し多様なリソースへの DOI 登録の利用促進を行います。	4.(3) 普及・広報
3. DOI やメタデータのオープンな利活用を推進します。	3-1. 他の ID サービスとの連携を行い、学術インフラサービスや学術情報サービスとの連携を強化します。	4.(4) 国際機関との関わり
	3-2. JaLC におけるメタデータ検索機能の充実、DOI の利用状況の提供に取り組みます。	2. サービスの開発、運用および管理
	3-3. ユーザーの意見を収集し、研究環境の変化に応じたサービス開発を目指します。	2. サービスの開発、運用および管理
4. オープンサイエンスの推進に向けて、研究データの利活用の促進に取り組みます。	4-1. 研究データの DOI に対して、国内外の組織と連携し、研究データ利活用を促進させます。	4.(4) 国際機関との関わり
	4-2. 研究データ利活用協議会 (RDUF) との協力関係をより強化します。	4.(1) 「研究データ利活用協議会」との協力
5. DOI を活用する学術コミュニティの活性化に貢献します。	5-1. DOI 活用促進のために、イベント等を通じて、DOI の理解を深めると共に、ユーザー同士のコミュニケーションを促進させます。	4.(2) コミュニティの醸成
6. コミュニティのニーズに応える、透明性の高い持続的な組織運営を目指します。	6-1. DOI が長期的に運用されていくために、DOI 登録を担う日本の学術インフラ機関としてのあり方を検討し、拡充します。	1.(1) JaLC 運営委員会 および拡大運営委員会

— 以 上 —